

評価対象：体験型 eラーニング ～失敗しながら学ぶプロジェクトマネジメント

評価者

評価日：2014/10/13

(1) 出口：学習目標の設定と評価方法の妥当性

OK	学習開始時に学習目標がわかりやすい言葉で学習者に提示されているか ⇒13個の目標提示がある
OK	合格基準や制限時間などの評価条件があらかじめ提示されているか ⇒60点や合格条件の提示はある。
NG	事後テスト合格者は教材の目標をマスターした人だと自信をもって言えるものか ⇒2択問題に対するテストのみであり、十分に目標をマスターしたと評価しづらい。
NA	目標とした学習項目全部をカバーするように、いろいろな問題が十分あるか ⇒体験版での検証であり、全体の評価は不可。

(2) 入口：成人学習理論とターゲット層

OK	学習者が有資格者かどうかを自己判断できる材料があるか ⇒有資格者の記載あり。
NG	教材利用資格が何かを確認し、自信をもたせる工夫をしているか ⇒利用資格は記載されているが、自信を持たせる工夫は見当たらない。
NG	教材をやる必要がない人と必要がある人を判別する仕組みがあるか(事前テスト等) ⇒チェックリストはあるが、教材をやる必要が無い人の判別を目的としていない。
OK	学習の進め方やコンテンツに用意されている各種機能の使い方が分かるか ⇒分かるようになっている。
OK	自分のペースやスタイルで学習を進めるための工夫があるか ⇒中断する機能や、音声のON/OFFなどが出来るようになっている。

(3) 構造：コース要素からの項目立て

OK	メニュー画面があり、コンテンツの全体像がわかるか
OK	メニュー画面には学習開始直後にアクセスできるか
NA	易しいものから難しいものへと順序だてられているなど項目間の関係がわかるか ⇒全項目を確認できないため不明。
OK	選択可能事項が適切に設定されていて、選択についての助言が与えられるか ⇒設定はされているが、2択では対応できない内容に踏み込めるとなお良い。
OK	メニュー画面に学習完了に対する進捗具合が学習者にわかる工夫があるか ⇒進捗を%表示している。
OK	短い部分に分割されており、飽きないような工夫があるか ⇒チャックは適切なボリュームとなっている。

(4) 方略：学習目標の達成を支援するコンテンツの工夫

OK	何についての情報提示かが明らかか(タイトルや見出し)
NA	すでに知っていることと関係づけながら新しい情報を提示・解説しているか ⇒体験版のみでは評価は困難。
OK	文字情報は、図表を用いて構造化され相互関係の理解を助けているか
OK	文字情報以外のイラスト、写真、動画、ナレーション等は学習効果を高めているか
OK	習得状況を自分で確認しながら学習を進められるか(例:メニュー項目ごとの練習)
OK	誤りを気にしないで試せる状況(リスクフリー)で練習をする機会が十分にあるか

	⇒リスクフリーではあるが、練習は何度でも可能。
NG	事後テストと同じレベル(難易度/回答方法)で仕上げの練習をする機会があるか ⇒仕上げの練習がない。
OK	苦手なところ/覚えられない項目を集中して練習する工夫があるか ⇒各項目ごとの評価が低い所を復習することを促す文章はある。学習者の意思に任されている。

(5) 環境：適切なメディアの選択とサポート体制の確立

OK	学習目標の達成を支援するためにメディアが効果的に使われているか ⇒「～ポイントを選択できる」という目標達成や体験型である点で静止画と音声などの組み合わせで構成されている。保持と転移を考慮した際の対応(印刷可能なまとめ、またはモバイル対応)を考慮したほうが良い。
OK	学習環境やコンテンツ開発上の制約に応じて適切なメディアが使われているか ⇒可能であればモバイル端末対応が望ましいと考える。
NG	持続的に学習を進めていけるようなサポートが準備されているか ⇒振り返りを促す文章はあるが、サポートとしては弱い。

注：OK=大丈夫・NA=該当しない・NG=不十分なところがある